

分掌	保健部
現状及びアンケートの結果分析等	・感染予防対応について外部の専門家と連携して検討し、分掌間及び各部の連携や全職員が互いに協力することで、全校体制で必要な対応をとることができている。 ・健康記録表の記入提出を依頼し、児童生徒及び保護者、職員、来校者の健康チェックを徹底した。各部の協力を得て、きめ細かい健康観察をすることができている。 ・感染症対策物品を事務部や他分掌と連携して調達し、管理した。市場に応じた必要量の調達と大量の物品を安全に保管する場所の確保及び環境作りが課題である。 ・看護師と教職員が連絡を密にし、連携して日々安全で適正な医ケアの実施に努めている。また、病状の変化する医療的ケア児のケアについて、指導医・主治医の指導を受け、保護者の合意を得て、安全な医ケアに努めている。 ・登校開始時に医療的ケア児が教室に入れない状況は、看護師の申し送り時間を調整することで改善していく。 ・令和3年度から実施予定の医療的ケア児校外学習充実事業は延期となった。 ・基本の緊急時対応マニュアルを作成し、実態に対応した個々のマニュアルを作成して、緊急時の体制を整えたが、長良医療センターへの搬送における課題が残った。 ・ヒヤリハット報告内容をPC掲示板に掲載したが、報告内容の周知と報告の必要性への意識の向上を図ることが難しかったため、紙面での回覧や朝礼での呼び掛け等を行う。 ・感染予防に対応した給食配膳や二次調理を行うための対策を検討し、関係職員の協力を得て、実施することができている。食形態情報の周知とアレルギー対応に準じた食品の取り扱いについて、職員間の連携に課題が残った。二次調理室から必要時に直ぐ連絡が取れるように校内電話を設置する準備をしている。 ・摂食・口腔ケアのアンケートを行い、1・2月に2事例の個別の情報交換会を実施した。定期的な実施や専門的な知識をもつ職員と課題を検討できる体制作りを進めたい。
今年度の具体的な明らかな重点目標	(1) 全校体制での感染予防対応を推進し、感染予防教育を充実する。 (2) 安全で適正な医療的ケアを推進する。 (3) 安全な給食実施を推進し、食育を充実する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・感染状況に応じた対応を全校体制で実施するために、指導医や薬剤師等専門家との連携、感染症対応委員会等の適宜開催、他分掌や部との有機的な連携を進める。 ・安全で適正な医療的ケアを実施するために、医療的ケア検討委員会等の適宜開催、指導医や主治医、医療機関や保護者、部との連携を進める。 ・安全な配膳や二次調理及び摂食指導を実施するために、配膳員・二次調理担当者・部との円滑な連携及び研究研修部やコアティーチャーとの連携を図る。
目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 全校体制での感染予防対応を推進し、感染予防教育を充実する。 ① 感染状況や対策について情報を得て、外部専門家の指導・他分掌や部との連携・感染症対応委員会等の開催により感染状況に応じた対応を検討し、全職員への周知徹底を図る。 ② 部や他分掌と連携して、児童生徒と職員及び来校者等の健康観察を徹底する。 ③ 防災環境部や事務部と連携して、対応物品の必要量を調達し、適切に管理する。 ④ 感染予防に必要な情報や授業に生かせる情報を発信する。 (2) 安全で適正な医療的ケアを推進する。 ① 日々の体調や病状等の情報を得て、安全なケア内容について看護師や関係職員間で共通理解して実施できるように、部や保護者・医療機関との連携及び看護師間の連携を進める。 ② 行事や授業におけるケアを安全に実施できるように、企画段階から看護師が加わり、ケア実施の場所やタイミング、物品の確認や活動の調整等を行う。 ③ 病状の変化する医療的ケア児についての安全なケアの内容について、指導医・主事医から指導助言を受けて医療的ケア検討委員会等で検討し、必要に応じて保護者との合意を図ったり、看護師や関係職員間で共通理解したりする。 ④ 長良医療センターへの搬送時の課題について検討し、緊急時対応マニュアルを改定して職

	員に周知し、訓練を実施して、迅速な対応ができる体制を整える。 ⑤医療的ケア児校外学習充実事業を安全に実施するために必要な内容を整理する。 (3)安全な給食実施を推進し、食育を充実する。 ①配膳や二次調理に関わる職員と連携し、衛生管理と器具の安全管理を徹底する。 ②各部の二次調理担当の中でチーフを依頼し、部内で連携して、食形態・調理手順・アレルギー対応等の情報共有を図る。 ③栄養教諭と担任や教科担当者が連携して食育を実施し、食育年間計画作成に生かす。 ④摂食・口腔ケア指導に関する情報交換会を実施し、研究研修部やコアティーチャーと連携して、安全な給食実施に向けて指導に必要な情報を提供し、検討する場を設ける。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)感染状況に応じた対応を立案し、全校体制で感染予防対応を実施することができたか。 (2)指導医や主治医と連携し、部と協力して、安全で適正な医療的ケアを実施することができたか。 (3)配膳や二次調理に関わる職員や部と連携して、安全な給食実施を推進することができたか。
取組状況・実践内容等	(1)・新型コロナウイルス感染症の感染対策の情報を得たり、外部専門家の指導を受けたりして、感染に応じた感染症対策を立案した。感染症対策物品を事務部と連携して調達し、一カ所にまとめて在庫管理した。 ・防災環境部と連携してCO₂チェッカーを各教室に職員室に導入し、換気チェックシートを教室や、各特別教室に配付した。 ・手洗いの歌、動画、キャラクター、ポスターを作成し、手洗いの歌キャンペーンを実施した。 (2)・病状や体調が変化する児童生徒の安全な医ケアの内容について、指導医・主治医からの指導助言を受けて検討し、保護者との合意を図り、看護師や関係職員間で共通理解して慎重に進めた。 ・長良医療センターのコール体制搬送訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。 ・医ケア児校外学習充実事業は新型コロナウイルス感染症のため他校の校外学習実績情報を十分に得ることができず、令和5年度以降の当校実施は未定、内容の整理には至らなかった。 (3)・感染症対策をはじめ、安全に配膳・二次調理を行うための対策を継続して実施した。各部に二次調理担当チーフを置き、担当職員との連絡調整役とした。 ・食育年間計画に沿って朝食アンケートや食育強化月間を実施し、食指導した。 ・摂食・口腔ケア実態表を作成し、担当者間で実態や課題を把握し検討した。 ・異物混入対応について、マニュアルに沿った対応ができていないことがあった。
評価の視点	
(1)新型コロナウイルス感染状況に応じた感染症対策を推進し、感染予防教育を充実することができたか。	A (B) C D
(2)保護者や医療機関、部と連携し、行事や日々の教育的活動における医療的ケアを安全に実施することができたか。	A (B) C D
(3)関係職員と連携し、安全な給食実施を推進し、食育を充実することができたか。	A (B) C D
成果・課題	
総合評価	
(1)○各部や分掌と連携して感染状況に応じた、より具体的な対応を全職員に周知徹底することができた。物品管理を一カ所にしたことで、在庫の出し入れや残数把握がしやすく、適切な在庫管理をすることができた。 ○CO₂チェッカーの導入や換気チェックシートの活用により、CO₂測定値によって換気を実施するなど、換気に対する意識をより高めることができた。 ▲感染予防教育では、小学部の児童には、手洗いの歌は効果的な指導であったが、中高生に対しては発達年齢に合っていないところもあった。 (2)○児童生徒の病状が変化した場合や課題が生じた際は、児童生徒の医ケアについて医療的ケア検討委員会（臨時）等を開催して指導医、看護師と関係職員で検討し、安全に医療的ケアを実施することができた。	A (B) C D

▲新型コロナウイルス感染拡大により、長良医療センターとの緊急コール体制の放送訓練はできたが、搬送を含めたシミュレーション訓練はできなかった。病院担当者全員と当校担当者の打ち合わせを実施し、体制やマニュアルの確認をして課題を出し合う予定である。 ▲医ケア児校外学習充実事業の他校の実績をふまえ、内容を整理する必要がある。 (3)○二次調理担当チーフを軸に、担任と二次調理担当職員との食形態や、アレルギー対応等の連絡調整等で連携し、円滑な業務を遂行することができた。 ○食育では、朝食アンケート、食育動画、食育プリント、食育掲示、メニュー紹介放送等の取組を通して、給食や食についての関心を高めることができた。 ○摂食に関するケース会議や主治医面談を実施し、関係者を集めて情報共有しながら検討を重ね、保護者と連携しながら慎重に進めることができた。 ▲異物混入対応では、マニュアルに沿った対応の共通理解を図り、安全に実施するための方策を検討する。	
来年度に向けての改善方策案	・感染予防教育では、中・高等部の生徒に対する感染予防の知識理解を深めるための指導の実施等、生活年齢に応じた指導内容を検討する。 ・長良医療センターのコール体制搬送時の課題に対する改善策を検討し、マニュアルを追加・訂正してコール体制を取り入れた緊急時対応訓練を実施する。 ・医療的ケア児校外学習充実事業の実施に向け、他校の実績をふまえつつ、指導医・主治医の助言を仰ぎ、十分に検討して、準備をすすめていく。 ・給食配膳、二次調理における異物混入時等対応マニュアルや、手順表について関係者へ周知徹底する。

分掌	生活支援部
現状及びアンケートの結果分析等	・自己紹介やがんばったこと、出来事等を動画やスライドで発表し、各学級で見合うことでお互いを知る活動に取り組んだ。また、ドリームアート展、各種作品展等に参加し、児童生徒の創作活動や表現活動を校内外に発信した。 ・あったかハート活動、人権啓発放送や人権だより発行等を行った。また、人権意識の向上やいじめ問題等の未然防止・早期発見を図るため、教員のチェックシートによる啓発を行った。 ・スクールカウンセラーによる研修や教育相談だよりの発行を行い、教育相談に関する職員の意識の向上を図った。また、教育相談月間においてアンケートの実施及び児童生徒のヒアリングを行い様々な変化に早期に気付くことができるよう努めた。また、児童生徒や保護者、教員のスクールカウンセラーによる相談会を実施した。 ・登下校時の安全指導を行った。また、非常変災時における帰宅確認訓練及び、警報等気象状況に応じた対応を行った。 ・交通安全や捜索、不審者対応に関して、警察からの資料を基にマニュアルを教員間で確認したり、作成されたプレゼンを周知したりした。また、情報モラルについて岐阜北警察署担当者から講話及びアドバイスを受けた。 ・アンケートより、いじめの取組について保護者から「わからない」と評価を受けた。いじめに関する当校の考え方や取組等基本方針を保護者に伝わりやすくする必要がある。
今年度の具体的な明瞭な重点目標	(1) 児童生徒の実態に応じた、自己肯定感をはぐくむことができる支援を実施する。 (2) 児童生徒・保護者一人一人を尊重し、受容的に接するための支援を実施する。 (3) 児童生徒が学校生活を安心・安全に送ることができるための支援を実施する。
重点目標を達成するための校内における組織体制	・児童生徒が学校や地域の一員として、活動する意義や喜びを感じるとともに、学級や部を越えて交流できる取組を行う。 ・児童生徒理解に努めるとともに、児童生徒の現状や対応について共通理解及び必要とされる支援について連携がとれる体制作りを行う。 ・全職員が児童生徒や保護者一人一人を尊重して受容的に接すること、信頼関係を築くことを図るための取組や研修を行う。 ・いじめ問題、情報モラル、防犯、交通安全等に対する危機管理意識を高め、迅速に組織で対応できる安心・安全な学校となるよう研修や周知を行う。外部機関との情報交換を行いなが

	ら、より当校の実情、児童生徒の実態に適した体制を確認する。 ・気象の変化や災害、交通状況等緊急時における対応や引き渡し、ヒヤリハットアクシデント事案について防災環境部、保健部と連携する。
目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 児童生徒の実態に応じた、自己肯定感をはぐくむことができる支援を実施する。 ①学級や部を越えた児童生徒の交流やお互いを認め合える活動を積極的に行う。 ②充実した創作活動・表現活動を計画的に行うことができるよう、創作活動担当者との打ち合わせを行う。 (2) 児童生徒・保護者一人一人を尊重し、受容的に接するための支援を実施する。 ①職員が人権感覚を磨き、受容的な教育相談や寄り添う支援を行うことができるよう、定期的な確認や職員研修、スクールカウンセラーの活用を計画する。 ②日常的・定期的な教育相談を継続して行う。また、状況に応じて校内及び外部機関と連携した支援体制を作る。 ③職員の危機管理意識を高め、問題の早期発見と組織として迅速な支援ができるよう、児童生徒に関する情報交換を行う。 ④各種たよりの他、いじめ防止対策基本方針を配付したり、ホームページに載せたりすることで、いじめやコロナ禍における差別等、人権教育に関する分掌の取組を児童生徒や保護者に分かりやすく発信・周知する。 (3) 児童生徒が学校生活を安心・安全に送ることができるための支援を実施する。 ①登下校時のあいさつ及び安全指導、スクールバスの安全運行のための連携・連絡を計画的に行う。 ②捜索や防犯、交通安全、情報モラルに関する支援、防災環境部と協力した安全指導（非常変災時の対応及び引き渡し訓練）を計画する。 ③児童生徒の心身の安全面を把握するとともに状況に応じて各部、他分掌、コア・ティーチャー、外部機関と連携した支援体制を作る。（ケース会議）
達成度の判断・判定 あるいは指標	・児童生徒が自己肯定感をはぐくむことができる支援ができたか。 ・情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。 ・安心・安全に学校生活を送ることができる支援ができたか。
取組状況・実践内容等	(1) ・学習活動を動画や作品として発表したり、交流したりする活動として金華祭週間や全校集会を行った。児童生徒会活動では、年間テーマ決めや金華祭週間の司会を行うとともに、昼の放送を行い、明るい学校づくりに向けて取り組んだ。 ・ドリームアート展や各種作品展に出展し、創作活動を校内外に発信した。 (2) ・人権教育では、あったかハートツリー活動、人権放送、人権だよりの発行を行った。また、人権意識の向上やいじめ問題等の未然防止・早期発見を図るため、研修会や教員のチェックシートによる啓発を行った。 ・教育相談では、教育相談だよりの発行、スクールカウンセラーによる研修会や相談活動を行った。また、教育相談月間において、生活アンケートの実施及びヒアリングを行い、現状や変化に気付くことができるように努めた。 (3) ・毎日登下校時に校門に立ち、通学時における安全確認を行った。また、各分掌と連携し、安全な登下校及び、非常変災時における帰宅確認訓練及び、警報や気象状況に応じた対応を行った。 ・交通安全や捜索、不審者対応に関し、マニュアルの確認や、資料を作成して周知を行った。また、情報モラル指導の研修会を行った。
評価の視点	
(1) 児童生徒が自己肯定感をはぐくむことができる支援ができたか。	A (B) C D
(2) 情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。	(A) B C D
(3) 安心・安全に学校生活を送ることができる支援ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
(1) ○金華祭週間では、オンラインの利点を生かして、個性や持てる力を創作や表現活動として発信することができた。また、ドリームアート展や作品展への参加を通して地域への発信することができた。それぞれの活動の中で、がんばりを認め合うことで達成感や満足感を得た	A (B) C D

り、自己肯定感を育んだりすることができた。 ▲児童生徒会活動において、役員として活動する児童生徒が少なくなっている。 ▲行事に対する参観や外部への情報発信、公開の在り方について課題が残った。 (2)○あったかハート活動では、児童生徒、保護者、職員が感謝の気持ちを込めたメッセージを伝え合い、人権感覚を啓発する取組となった。また、新型コロナ感染症に関して、児童生徒の実態に合わせた授業や職員研修を行い、感染に関する正しい知識や対応を理解したり、思いやりについて考えたりすることができた。 ○研修会を通して、職員の教育相談に関する意識を高めることができた。また、教育相談月間により、担任からの意見も確認しながら、児童生徒の心の状態や変化に早期に気づき、情報共有するよい機会となった。 ○スクールカウンセラー相談においては、相談しやすいとの意見が多く、生徒や保護者に対し、継続的な相談活動が行われた。また、担任が助言を受けたり、支援会議に参加していただいたりすることで、効果的に活用することができた。 (3)○登下校や校内における生活安全に関して、年間を通して事故や生徒間トラブルはなく、児童生徒が安全で、安心して学校生活を送ることができた。 ▲交通安全等、生活安全教育については、個別に指導を行った。担任や関係機関との連携を大切にしながら、実態や必要性に合わせて取り組む必要がある。	
---	--

来年度に向けての改善方策案	・金華祭やドリームアート展について、開催の在り方を検討する。 ・次年度はスクールバス運行の当番校となる。関係機関や各分掌との連携を密にし、日々の登下校や非常変災時における対応等、安全な通学支援に努める。 ・関係機関をはじめ、資料やデジタルコンテンツを活用し、交通安全や不審者対応、情報モラル等生活安全に係る支援を学校の実態に応じ、定期的、継続的に行う。 ・生徒指導上の課題や危機管理について、実態把握、情報共有、支援の在り方、各教員の役割等共通理解を図り、早期に組織として対応できる体制を示す。 ・外部機関と情報交換を行いながら、人権や教育相談、情報モラル、いじめ、SOSの発信等、生徒指導における実情が周知できるように研修を実施する。また、職員に対してアンケートや聞き取りを行い、研修のテーマや聞きたいこと、困っていること等を集約し、学校課題として研修に臨むことができるようにする。
----------------------	--

分掌	防災環境部
現状及びアンケートの結果分析等	・県の方針、市の指導に基づき防災マニュアル、避難確保計画を改訂し周知した。 ・感染症対策から、人数を限定した防災対策本部訓練を実施した。本部長を軸とした本部職員の動きを確認できたが、全職員への任務周知は課題が残る。 ・新たに設置した携帯用電源等に管理責任者を指定するなど、備蓄品の管理体制を整えた。 ・感染症対策から命を守る訓練を学級毎に実施し、希望した一部の学級のみ長良医療センター通路を一時集合場所とする訓練を実施したが、一斉避難した場合に起こりうる課題の把握に課題が残った。 ・引き渡し訓練、安否確認訓練を実施し、迅速な対応ができるよう課題を検討した。 ・地震、火災、土砂災害を想定したミニ命を守る訓練を実施した（年6回）。 ・「しゃべりつつながら」や学校だよりを活用して保護者に防災に関する情報を発信した。教育活動に関するアンケート内「緊急時の対応にしっかり備えている」の項目に対する結果は昨年と比較し数値が上昇したため、保護者への啓発がある程度進んだと考える。 ・環境教育月間を設定し、期間中に正しい清掃方法について学ぶ機会をもった。 ・担当者と事務部が連携し、特に必要な修理等は至急実施するなど見通しをもった対応ができた。一方で、安全点検から修繕までの流れが不明瞭との意見が出た。 ・安全点検が形式的になっている部分があることを受け、点検方法の見直しを行っている。 ・消耗品、加湿器等物品の購入と管理、全校体制での消毒作業により感染症対策に取り組んだ。授業毎、放課後毎に実施する消毒作業は職員の負担が大きいとの意見がある。
今年度の具体的な重点目標	(1)非常変災時に対する職員の危機管理意識を高めるために、防災マニュアルを踏まえ、児童生徒と職員が命を守ることを第一に行動できる訓練や研修を実施する。 (2)環境の安全確保に対する職員の危機管理意識を高めるために、怪我や事故を未然に防ぐ意識

	を持ち、確実に安全点検を実施するよう働きかける。 (3)感染症予防のために、環境整備を進める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・各職員が非常変災時の自身の任務を理解し非常時に安全・迅速に対応できるよう、防災対策本部及び各分掌と連携しながら訓練・研修を進める。 ・非常変災時の引き渡しの在り方等について、各部及び生活支援部と連携し検討する。 ・家庭での防災対策について、キャリア支援部や渉外部と連携し推進する。 ・環境整備について、事務部とも連携し進める。 ・感染予防のための環境整備について、保健部及び各部と連携し進める。
目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 非常変災時に対する職員の危機管理意識を高めるために、防災マニュアルを踏まえ、児童生徒と職員が命を守ることを第一に行動できる訓練や研修を実施する。 ①防災マニュアル理解のため、防災マニュアルに基づいた職員D I G訓練を、感染症予防として全職員を2グループに分けるなどの対策を講じつつ実施する。 ②様々な状況に対応しつつ安全な避難行動をとることができるよう、自ら考え判断する状況を付与した命を守る訓練を、密を避けて待機するなど避難の際の感染症対策の共通理解を図りながら、全校一斉の訓練として実施する。 ③非常変災時に適切な対応が取れるよう、引き渡し訓練、安否確認訓練を継続する。 ④児童生徒の災害時の安全確保のため、長良医療センターとの連携の在り方を検討するとともに、地域に対して防災に関する情報発信をし、当校の状況への理解を進める。 ⑤今後も、高度な医療的ケアを必要とする当校児童生徒に応じた防災情報を保護者に提供していくことを継続していくために、様々な手段で情報を収集するよう努める。 ⑥児童生徒が安全に屋外避難するための物品の整備を進める。 (2) 環境の安全確保に対する職員の危機管理意識を高めるために、怪我や事故を未然に防ぐ意識をもち、確実に安全点検を実施するよう働きかける。 ①確実な安全点検実施のため、具体的な点検方法を周知する。 ②安全確保が最優先であることを念頭に迅速に異常個所を報告できるよう、修繕までの流れの周知を図る。 (3)感染症を予防のために、環境整備を進める。 ①無理なく長期に渡り消毒作業に取り組むことができるよう、使用薬剤と消毒方法等について、根拠ある情報に基づき適時見直しを行い周知する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1)感染症対策を講じつつ、実際の災害を想定しながら訓練を実施し、防災に対する意識を高めることができたか。 (2)継続的に安全点検に関する周知を図ることで、職員は各点検個所に応じた方法での安全点検及び迅速な報告を行うことができたか。担当者は事務と連携し迅速な修理等の対応ができたか。 (3)消毒方法を適時見直し、適切な消毒作業を継続することができたか。
取組状況・実践内容等	(1) ・夏休みに講師を招き、感染症に配慮しつつ分掌ごとにD I G訓練研修を実施した。 ・密を避けつつ、各自が状況判断できるよう、通れない箇所を設定した命を守る訓練を実施し、明らかになった課題をフローチャートへ反映した。 ・地震、火災、土砂災害を想定したミニ命を守る訓練（週間）を実施した。 ・生活支援部と連携しながら引き渡し訓練を実施し、密を避ける形での全校一斉引き渡しの課題を検討、方法を見直した。 ・「耳より情報」を月1回のペースで発行し、命を守る訓練と関連付けたり、時季に合わせたりした様々な防災情報を保護者に伝えた。 (2) ・大掃除週間と合わせてクリーンアップキャンペーンを実施し、掲示物を作成したり、放送を行ったりして掃除方法について学びながら実施できるよう設定した。 ・安全点検を定期的実施し、修理や修繕個所を把握し、事務部と連携しながら環境の改善に努めた。 (3) ・保健安全部と連携して、CO2 チェッカーの導入や水道蛇口の自動水栓化を行い、感染症対策に取り組んだ。 ・購入できるアルコールの量が増加したことに伴い、午前の消毒作業を界面活性剤からアルコール消毒に変更した。

評価の視点	評価
(1) 防災マニュアルを踏まえながら、児童生徒と職員が命を守ることを第一に行動できる訓練や研修を実施することで、非常変災時に対する職員の危機管理意識を高めることができたか。 (2) 定期的な安全点検の実施を通して、環境の安全確保に対する職員の危機管理意識を高めることができたか。 (3) 消毒の実施方法についての改善や、環境整備を図ることで、感染症対策を進めることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
成果・課題	総合評価
(1) O D I G 訓練研修を通して、フローチャートをもとに、非常変災発生後の個人の動きや分掌の動きについて確認した。 ○医療的ケアを必要とする児童生徒が多い、当校の実態に応じた防災情報について、継続的に保護者に提供できた。 ○長良医療センターとの申し合わせを行ったことで、非常変災時の避難先のひとつとして医療センター内への避難が可能になった。 ▲引き渡し訓練の際に、感染症に配慮するために部ごとに出入口や引き渡し場所を設定し、1台ずつ安全に移動を行ったが、職員や車の動きをイメージしづらいことが課題となった。 ▲命を守る訓練について、事前事後の反省を各学級で話し合いを行う形式に変更し、職員ひとりひとりが課題意識をもって参加できるように設定したが、課題意識をもつことに課題が残った。 (2) ○安全点検用紙を用いて修理・修繕箇所の状況を把握できたこと、事務部と連携して修理を至急実施するなどの対応ができた。 ▲安全点検用紙の配付方法を変更し、確実に点検を行えるように設定したものの、形式的になっている部分がある。 (3) ○教室の水道蛇口を自動水栓化したことで、利便性が向上するとともに、水栓から感染する可能性が低くなった。 ○複数の教師業務支援員との連携により、教員の消毒作業が軽減された。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・今年度の変更点を踏まえつつ、防災マニュアルを周知・活用できるよう、より実践的な訓練を工夫、実施する。また、訓練から得られた課題を検討し、マニュアルに反映する。 ・安全で現実的な避難行動をとることができるよう、自ら考え判断する状況を付与した訓練内容を検討、実施する。 ・非常変災時でも安全かつ早急に引き渡しが行えるよう、日頃の送迎状況にあわせた形での引き渡し訓練を検討・実施する。 ・児童生徒の実態に即した変災時の安全確認方法について情報を得られるよう、可能な範囲で各種防災に関する研修会に参加する。 ・長良医療センターと連携し、変災時の対応について協力していくことや、定期的に保護者に情報発信を行うこと等、理解啓発を進める。 ・安全な環境の整備のため、より確実に点検が実施できるよう安全点検の方法を検討、周知する。 ・無理なく長期に渡り取り組むことができるよう、根拠ある情報に基づいた消毒方法及び、作業分担の見直しを適宜行う。